

## 長久手市におけるスポーツ・健康づくり推進に関するアンケート調査結果からの考察

## 1. 目的

第5次総合計画に掲げられた将来都市像「人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手」の実現化に向けた重点プロジェクトとして、現在、基構想を策定している健康とスポーツの拠点「スポーツターミナル」の施設整備を推進するため、自主的なスポーツ活動や健康づくりを実践している市民を対象としたアンケート調査結果に基づき、市民からの新施設への希望・要望を把握し、今後の導入機能のあり方を考察することを目的とする。

## 2. 方法

長久手市（生涯学習課）が市内にある体育関連施設利用者及び関係団体を対象に実施した「長久手市におけるスポーツ・健康づくり推進に関するアンケート」調査の回答結果をもとに分析と考察を実施する。

## 3. 回答者属性

- 回答者の約 2/3 は女性
- 回答者の約 2/3 は中年世代（40～60 歳代）
- 回答者の約 2/3 は習慣的な施設利用者ではない
- 回答者の 1/2 以上が「杵ヶ池体育館」の利用者

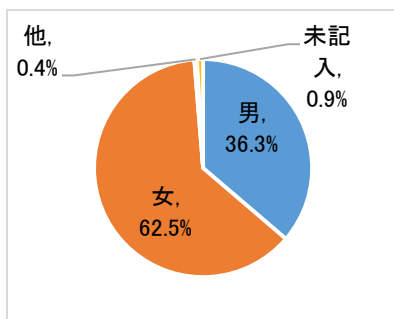


図-1 性別

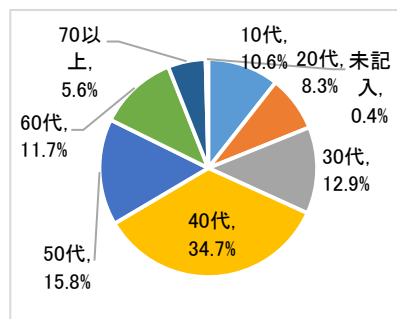


図-2 年代

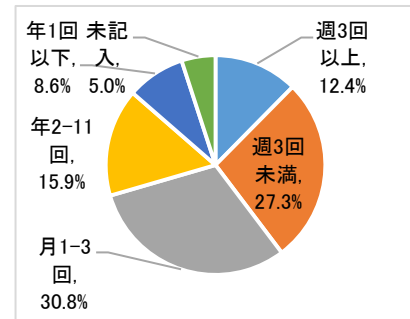


図-3 利用頻度

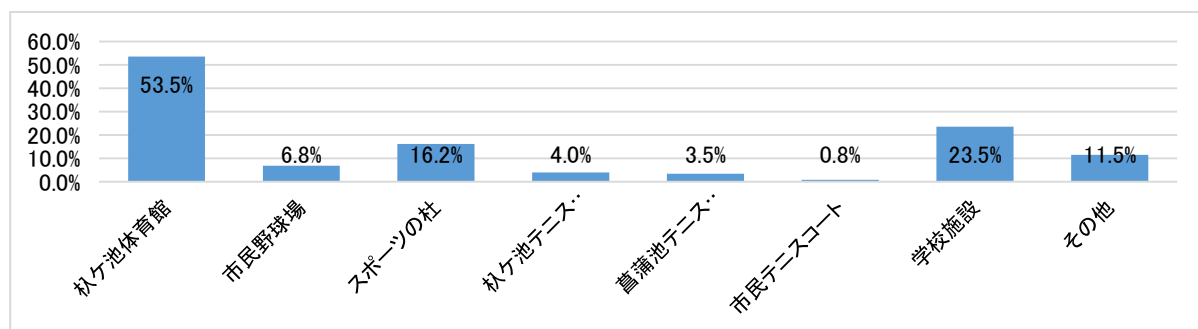


図-4 利用施設 (MA)

以上、回答者の属人的属性には「女性」「中年」「利用頻度の少ない利用者」という偏重傾向が見受けられることから、分析にあたっては、性別・世代等の属人性に影響されない「意識・関心」「実践」の有無という属性面からのアプローチによる分析を実施した。

#### 4. スポーツ・健康づくりへの親和状況を基調とする属性分類

体育関連施設利用者及び関係団体に対し、日常のスポーツ・健康づくり活動への親和度を聞いたところ、回答者の14.7%は「両方ともに未実践」だったが、「スポーツ」43.5%、「健康」16.7%、「両方とも実践」が15.9%となっており、76.1%がスポーツや健康づくり活動を実践しており、「取り組みを検討中」8.5%を加えると体育館利用者の約85%がスポーツ・健康づくり活動に対して関与していることが判明した（表-1）。

したがって、分析にあたっては、市民属性を以下の4種に分類し、属性ごとに実践中の活動にとって有効と考えている機能と新施設に対する希望等の意識実態を比較、それぞれの差異や共通点を比較することで、施設整備方針に関する手がかり（を求めること）とした。

##### (1) 属性分類

- ・ 日常的にスポーツ活動を実践している群
- ・ 日常的に健康づくり活動を実践している群
- ・ 日常的にスポーツ活動も健康づくり活動も実践している群
- ・ スポーツ活動や健康づくり活動への取り組みを検討している群

##### (2) 比較分野

- ・ 自主的な健康づくり活動やスポーツ活動にとって有効と考えている機能
- ・ 新しい施設に対して望む機能

表-1 あなたはふだんからスポーツ・健康づくりに取り組んでいますか (SA) N=1139

スポーツに取り組んでいる	496	43.5%
健康づくりに取り組んでいる	190	16.7%
両方に取り組んでいる	181	15.9%
どちらか又は両方に取り組もうとしている	97	8.5%
取り組んでいない	168	14.7%
未記入	7	0.6%
合計	1139	100.0%

## 5. 分析 その1

自主的なスポーツ活動や健康づくり活動を実践中の市民が活動を活性化するために必要性を感じている機能

### (1) スポーツ・健康づくりで、あったら良い施設

スポーツ・健康づくり活動に有効と考える施設に関して複数回答方式で聞いたところ、「トレーニングジム」46.3%、「ヨガスペース」25.3%、「ウォーキングコース等」32.0%が他の選択肢に比べて高い値となっていた。(表-2)

表-2 スポーツ・健康づくりで、あったら良い施設 (MA)

N=1139

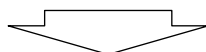
施設や機器等が充実したトレーニングジム	527	46.3%
ウォーキング・ジョギングコースなど	364	32.0%
ヨガなどの軽い運動ができるスペース	288	25.3%
主にチームで利用する施設	458	40.2%
主に個人で利用する施設	188	16.5%
その他(別紙「自由記述」参照)	62	5.4%

## (2) 属性別回答結果からの分析

スポーツターミナルを構成する2大要素が、スポーツと健康づくりであることを考慮し、スポーツ活動に取り組んでいる者（以下「スポーツ群」）と健康づくり活動に取り組んでいる者（以下「健康群」）の意識に差異及び共通点があるかを基軸に配するとともに、スポーツ活動と健康づくり活動の両方を実践中の者（以下「両方群」）、取組検討中の者（以下「検討群」）等とも比較しながら分析した結果（表-3）、以下のような傾向が認められた。

### 分析結果

- 希望する施設に関して、スポーツ群は健康群に比べて「ウォーキングコース」よりも「トレーニングジム」を希望する傾向が強く、反対に健康群では「トレーニングジム」よりも「ウォーキングコース」を希望しているという傾向が見られた。しかしながら、両方群、検討群については、前記2群のような顕著な傾向は認められなかった。
- 希望する施設の性格について、スポーツ群及び両方群においては、その他の群に比べ、「チーム利用施設」を希望している割合が高いという傾向が認められた。一方、「個人利用施設」については、すべての群において差異が認められなかった。しかしながら、「ヨガスペース」に関しては、健康群、検討群において関心の高さが見られた。



### 分析結果からの考察

- 施設計画にあたって、スポーツ振興の面からは「チーム利用」を主形態とするジム設備とトレーニングプログラム（指導者）の整備が有効と考えられる。
- 健康づくりの観点からは、「ウォーキング」や「ジョギング」等の周辺環境へのアクセスが容易な施設計画や、「ヨガ」「ピラティス」等の有酸素運動を組み合わせたプログラム開発及び指導者配置が有効と考えられる。

表-3 取り組み状況の違いによるスポーツ・健康づくりで、あったら良い施設 N=1132

	スポーツ実践者 N=496	健康活動実践者 N=190	両方実践者 N=181	取組検討中の者 N=97	未実践者 N=168
トレーニングジム	265 53.4%	74 38.9%	85 47.0%	43 44.3%	57 33.9%
ウォーキング ジョギングコース	128 25.8%	80 42.1%	61 33.7%	37 38.1%	57 33.9%
ヨガスペース	77 15.5%	70 36.8%	42 23.2%	34 35.1%	64 38.1%
チーム施設	263 53.0%	52 27.4%	90 49.7%	25 25.8%	26 15.5%
個人施設	72 14.5%	33 17.4%	34 18.8%	16 16.5%	32 19.0%
その他	26 5.2%	5 2.6%	13 7.2%	9 9.3%	9 5.4%

## 6. 分析 その2

自主的なスポーツ活動や健康づくり活動を実践中の市民が新しい施設への設置（併設）を期待している施設・機能

### (1) 新しい総合体育館と一緒にあったら良い施設

新しい総合体育館と一緒にあったら良い施設に関して複数回答方式で聞いたところ、「健康チェック施設」49.8%、「飲食施設」42.1%が高い割合を示していた。（表-4）

表-4 新しい総合体育館と一緒にあったら良い施設 (MA)

N=1139

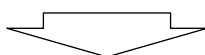
（簡易な）健康チェックができる施設	567	49.8%
食育を学習できる施設	142	12.5%
（健康メニューの充実した）飲食施設	480	42.1%
会議室、講義室	189	16.6%
団らん施設（フリースペース）	372	32.7%
託児施設	189	16.6%
その他（別紙「自由記述」参照）	99	8.7%

## (2) 属性別回答結果からの分析

前項と同じく、スポーツ群と健康群の意識的な差異及び共通点を基軸に分析した結果(表-5)、以下のような傾向が認められた。

### 分析結果

- 各群の違いによる大きな差異は見られなかったが、健康群において「健康チェック施設」を希望する割合が他群に比較して高かった反面、「健康配慮型飲食施設」は他群に比べて低くなっていた。
- 健康群における「食育学習施設」、スポーツ群における「会議室」の選択率は他群に比較して割合が高くなっていたが、他施設に比べると数値自体が小さかった。
- 検討群において「託児施設」を希望する割合が他群に比較して高くなっていた。



### 分析結果からの考察

- 「会議室」や「食育施設」は、健康に配慮するというテーマ性を強調するよりも、利便性や汎用性を重視すべきかについて追加の検証が必要と考えられる。
- 潜在的利用者として有望と考えられる「検討群」を誘導するためには、「託児施設」の設置に関する追加の検証が必要と考えられる。

表-5 取り組み状況の違いによる新しい総合体育館にあったら良い施設

N=1132

	スポーツ実践者 N=496	健康活動実践者 N=190	両方実践者 N=181	取組検討中の者 N=97	未実践者 N=168
健康チェック施設	216 43.5%	109 57.4%	90 49.7%	58 59.8%	93 55.4%
食育学習	50 10.1%	30 15.8%	24 13.3%	14 14.4%	24 14.3%
飲食施設	216 43.5%	67 35.3%	96 53.0%	41 42.3%	58 34.5%
会議・講義室	102 20.6%	29 15.3%	37 20.4%	8 8.2%	13 7.7%
団らん施設	172 34.7%	65 34.2%	60 33.1%	38 39.2%	36 21.4%
託児施設	76 15.3%	29 15.3%	34 18.8%	20 20.6%	30 17.9%
その他	45 9.1%	14 7.4%	22 12.2%	7 7.2%	11 6.5%

## 6. まとめ

### (1)利用者（市民）から求められている導入機能

分析の結果、スポーツ分野では、チームでの利用を主とする方から「トレーニングジム」の設備が求められていることが、健康づくり分野では、「ウォーキングやジョギングコース等」の周辺地域の自然環境との親和性を配慮した施設計画・配置が求められていることが推察できた。

したがって、これらの施設・機能連携を支えるインフラとしてのトレーニングプログラム（指導者）の整備や「ヨガやピラティス等」の有酸素系運動を組み合わせたプログラム開発及び指導者の配置等にも配慮した検討が必要と考えられる。

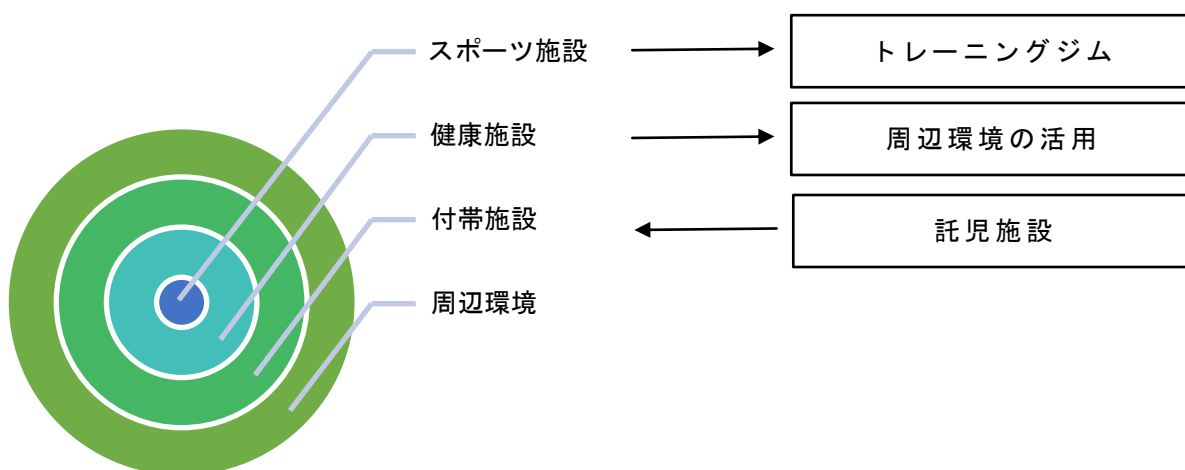


図-5 施設整備の概念

### (2)今後に向けて

当該分析は「Group A」に属する市民（利用者）を中心とする意識調査結果を検討材料として実施したが、「PFI」や「PPP」等の事業手法も想定できることから、採算性の担保手段として利用者の増大を図るためには、「Group B」や「Group C」へのアプローチが不可欠なことからターゲット別の調査検討も必要と考えられる。

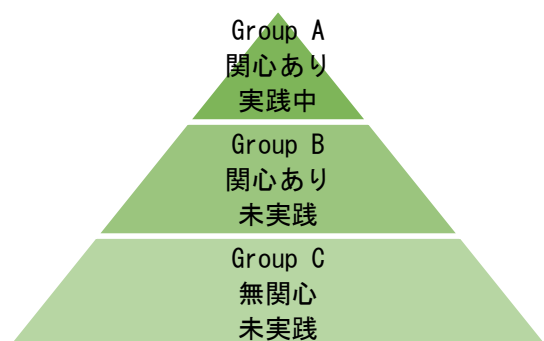


図-6 ターゲットの明確化